

家族や地域があって初めて成り立つものだから  
 “農業”というより“農家”。  
 仲間として役に立てることは喜びであり誇りです。

右から 佐藤省吾さん、長女すずちゃん、妻尚美さん、長男敢太君。



むかわ町



特集

# 住みたい農村

畑に立って遠くまで見渡すとき  
 深呼吸したくなるのはなぜでしょう。  
 採れたての作物を手にとるとき  
 幸せな気分が湧いてくるのはなぜでしょう。  
 食べ物が生まれる場所はいのちが輝いている場所。  
 育てる人の笑顔がまぶしい場所。  
 農業や農村に魅せられて新規就農した青年の  
 真摯な姿や、地域を元気にする移住者の活躍…。  
 あなたもきっと出かけたくなる、  
 農村の今をレポートします。

「あなたを輝かせる出逢い、  
 ここにあります」



confa もくじ

- 1 住みたい農村【特集1】  
 新規就農2年目のご夫婦と地域の支援体制  
 佐藤省吾さん・尚美さん(むかわ町)
  - 4 住みたい農村【特集2】  
 ニセコでレストラン経営や有機野菜のネット販売  
 ニセコグリーンファーム  
 デニス・バン・デン・ブリングさん(倶知安町)
  - 5 住みたい農村【特集3】  
 移住者の視点で地域に賑いを創出  
 「とかるね」千葉千栄美さん・貴一さん(豊頃町)
  - 7 農のがっこう おとな編  
 体験レポート 畑でレストラン in 鶴沼ワイナリー
  - 8 大地のめぐみレシピ〜農家レストランから愛を込めて〜②  
 南富良野町[Farm & Cafe ベリーズ]岡崎みゆきさんの  
 そば粉のガレット
  - 9 ふれあいファームへ行こう!
  - 11 confa農業塾
  - 13 読者からのお便り
  - 14 北海道からのお知らせ
  - 15 北のいのち図鑑く畑編>
- [ページ下情報]  
 移住・就農ミニ情報

特集1

## むかわ町 新規就農 佐藤省吾さん・尚美さんご夫婦と 地域の支援体制



胆振管内むかわ町といえば「シヤモ」。そんなイメージがありますが、一方ではお米、豆類、野菜類、メロンや花などの栽培が盛んな農業のまちでもあります。

福島県に育ち、北海道の大学で学んだ佐藤省吾さんは、大学卒業後、海外での支援ボランティアやNPOの職員を経て農業を志し、再び北海道へ。むかわ町の農業法人で栽培技術を培った後、現地で知り合って結婚した尚美さんと共に2013年10月に新規就農しました。冬の一日、春レタスの定植に忙しい佐藤さんを訪ねました。

### 地域性を生かした “農”に取り組む

佐藤さんが取り組んでいるのは施設園芸と呼ばれるハウス栽培。尚美さんの実家の農地を借りて、夏場はトマト、冬場はレタスを作っています。

2014年12月の午後、佐藤さんは7棟あるハウスのうちの1棟で黙々と春レタスの定植作業をしています。農作業のパートナーでもある尚美さんは2人目のお子さんが生まればかりで、お休み中です。





### 地域の一員として 生きる決意

「20代の頃、『世界を見てやろう』と海外へ飛び出し、さまざまな開発途上国へ行きました。そこで必要なのは人に働きかけて組織づくりをする能力でしたが、僕自身は自分でコツコツ何かを作り出す方が向いていると感じていました。現地の状況を見て食料を作り出す農業の大切さも見えてきました。農業を志して帰国後、「新・農業人フェア」に参加し、手応えを感じたのがむかわ町でした。農業をビジネスとして会社組織で経営したいと考えていた佐藤さんは新千歳空港に近いことや温暖な気候にメリットがあり、経営のノウハウを学べることも勘案してむかわ町の農業法人に就職しました。



土の上に敷いたマルチシートにあげられた穴をめぐり、ピンセットを使って一つ一つついでに高さ4センチほどの可愛らしい苗を植えていきます。終了後、支柱の列に保温シートをかかるとトンネルの出来上がり。白いシートで覆われたハウスの中は、農業というよりSF映画のシーンのようです。

「むかわは冬でも比較的温暖なので、こうして保温すると暖房費が一切かからないんです。北海道の冬は雪が多く、ハウスの維持が難しいのですが、むかわは雪が少ないので、通年で栽培することができるんです」と、佐藤さんは地域ならではの農業を誇らしげに語ります。



アフリカやアジアで支援活動をしていた頃



たくさんの仲間が新規就農をお祝いしてくれた

「けれども法人の代表や妻の実家を始め、役場、JA、地域のみなさんの一丸となった支援を受けるうちに、農業は家族や地域があつて初めて成り立つもの」と意識が変わりました」と佐藤さん。「地域の一員として恩返ししていきたい」と力を込めます。



作業の息抜きにお茶やお菓子が用意されていた



今回の取材のお世話をしてくれた役場の飛岡さんと談笑

が食卓に届くのか今から楽しみです。佐藤さんを始め、全道各地で奮闘する若き農業者たち。真摯に取り組む姿が地域にフレッシュな活力を吹き込み、その成長が農村を明日へとつなげていきます。

## むかわ町の支援体制について



「本気の1週間農業体験」(2014年8月開催・参加者7名)開会式で挨拶する「むかわ町新規就農受入協議会」内海久俊会長

【お話】  
むかわ町 産業振興課 農政グループ  
飛岡 雅幸さん

むかわ町の大きな特徴は、農家自ら協議会を立ち上げて新規就農希望者を積極的に受け入れてきたこと。役場とJAの連携も密接で一丸となった受け入れ体制が整っていると言えます。まちで推奨しているハウスによる野菜栽培は初期投資が少なく済みますし、温暖な気候のため通年栽培できるのも大きな魅力だと思います。



参加者は受入農家からマンツーマンで指導を受ける

また、日帰りから、1週間程度の本気の体験、まちの研修施設を使った本格的なものまで段階に応じて多彩なプログラムが用意されているので、希望者も自分の適性を見極めやすいと思います。

おかげさまでこの5年で5組が参入。新規就農の方が目を輝かせて自分の作物のことを語ってくださると、私自身もお手伝いしてよかったと心から思います。

お問い合わせ ..... Tel. 0145-42-2330

### 佐藤さんご夫婦の歩み

- 2007年 省吾さん東京の「新・農業人フェア」へ
- 2008年 省吾さんむかわ町へ (有)サンファームに就職しレタス、トマトの栽培法を学ぶ
- 2011年 尚美さんと結婚
- 2012年 長女すずちゃん誕生
- 2013年 新規就農(ハウス7棟)
- 2014年 長男敢太君誕生



小さな苗も3~4か月でこんなりっぱな実りになる

特集2  
有機栽培した野菜を使った  
レストラン経営やネット販売  
＜有機栽培農家＞  
ニセコグリーンファーム  
デニス・バン・デン・プリングさん (倶知安町)



ニセコのみなさんはオープンマインドで受け入れてくれました。

出身はオランダですが、世界を放浪したあと、起伏のある風景に魅せられて北海道に来て10年になります。昼夜の寒暖差が大きいことや、

風間も温度が上がりすぎないことなど、北海道にはおいしい野菜ができる条件が揃っていると思います。そして何より人の心が開放的なのがいれしい。北海道の前に長野や福島にいたこともあるのですが、歴史が古い分、心の壁が高いと感じていました。でもこちらでは地域に自然に溶け込めたと思います。

ニセコグリーンファーム  
虻田郡倶知安町比羅夫258-3  
Tel. 0136-21-5277  
Web. http://nisekogreenfarm.com/  
グリーンファームカフェ  
虻田郡倶知安町山田167-6  
Tel. 0136-23-3354



移住・就農  
名寄市  
ミニ情報③  
お問い合わせ: 名寄市経済部農務課農政係 ..... Tel. 01655-3-2511

移住・就農  
せたな町  
ミニ情報②  
お問い合わせ: せたな町役場総務課まちづくり推進室まちづくり推進係 ..... Tel. 0137-84-5111

せたな町  
町村合併を機に農業、漁業、畜産と産業がより豊かになったせたな町はサーフィングなど海のある暮らしが楽しめる。移住体験希望者には、温泉に宿泊する体験プランを実施している。  
お問い合わせ: せたな町役場総務課まちづくり推進室まちづくり推進係 ..... Tel. 0137-84-5111